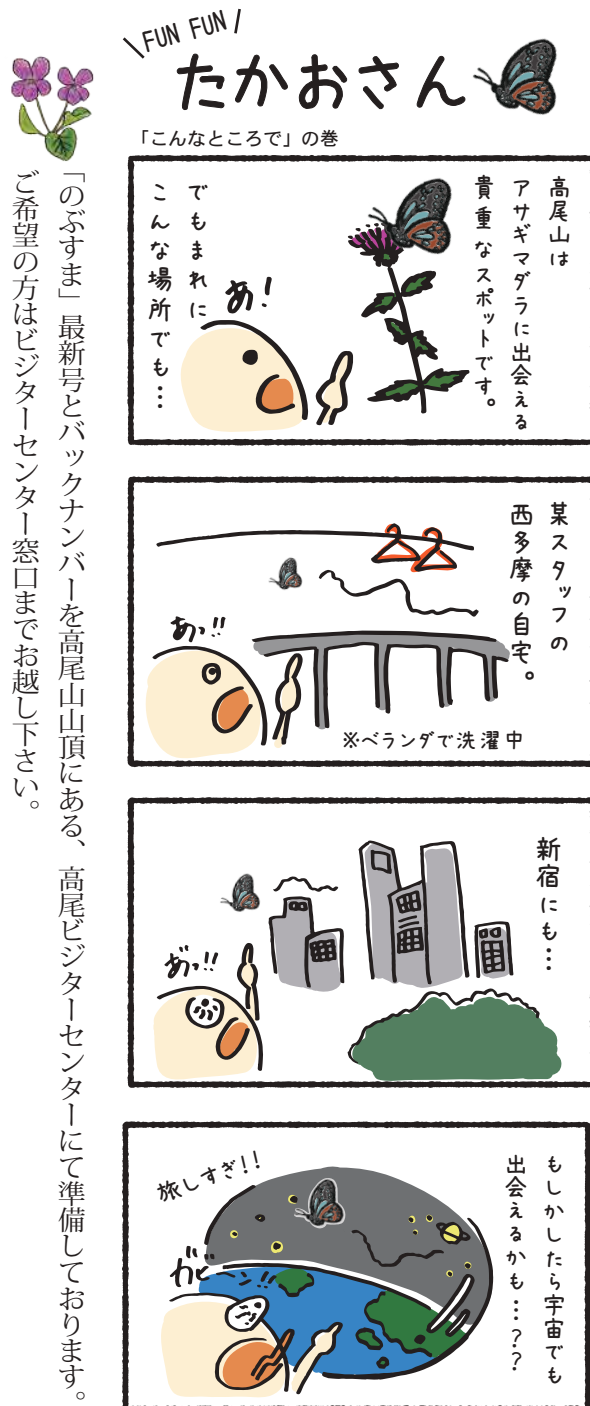




## 指定管理者制度移行のお知らせ (平成30年4月1日から)

4月1日より東京都高尾ビジターセンターは指定管理者制度が導入され株式会社自然教育研究センターが管理運営を行います。高尾山の魅力をより良く伝えられるようスタッフ一同、努力して参ります。今後ともご愛顧のほど、何卒よろしくお願い致します。

## ホームページ リニューアル

公式ホームページをリニューアルいたしました。ホームページのアドレスはこれまでの<http://takaovc599.ec-net.jp/>から変更はありません。



Twitter・Facebookも始めました！  
こちら是非チェックをお願いします。

## 春風に吹かれて

解説員  
いらむ  
vol.14

11年前の春、当時中学生だった私は、虫を探しに高尾山に登った。5号路を歩いていると、見晴らしの良い場所で様々な昆虫が次々に飛翔してきては、近くのベンチや道標にぶつかり、しがみつくとという様子がみられた。ベンチの前方には、切り開かれた広い斜面があったため、小さな昆虫達は吹き上がった強い風に乗ってきたと思われる。その中に、クリストフコトラカミキリ（以下、クリストフ）というカミキリムシがいた。調べてみると、この虫は、高尾山では1984～85年に多数の記録があった。その頃は、圏央道建設により周辺地域の開発の動きも活発化していた時代であった。そのため、込縄（こみなわ）林道が伐採されたことで、幼虫の餌となるコナラの新しい伐採木から見つかり出したと言われている。しかし、これも一時的で、それ以降、高尾山でクリストフは、すっかり見られなくなったようだ。

偶然にも、一匹の虫を通じて高尾山での出来事の一片を知ることになった。現在、クリストフが飛んできた斜面は、若い木々が生い茂っている。かつてのように様々な昆虫がベンチまで飛んで来ることはなさそうだ。とはいえ、こうして森林の再形成を実感できるのもクリストフのおかげである。

高尾山には、約5千種の昆虫が生息していると言われている。冬の間、身を潜めていた虫達が、今年も蠢（うごめ）き始め、賑やかになってきた。これからの虫を見つけ、何を知ることができると楽しみでならない。

〈解説員 小林〉

高尾山山頂から発信！

# のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。

vol. 51 季刊  
2018年春号

## 旅をする蝶

### ～アサギマダラと高尾山をつなぐもの～

アサギマダラは季節移動をすることで知られている蝶で、国内では沖縄から北海道までのほぼ全土で見られ、国外では中国、台湾、朝鮮半島、ヒマラヤ山脈まで広く見られます。春～夏にかけては日本列島を北上し、秋には南下の旅へと転じます。海をも渡るその移動距離は、長いもので2000キロ。しかし旅をする理由についてはまだよくわかっておらず、その謎めいた生態もまた私たちの好奇心をかき立て魅了します。



## アサギマダラ

(タテハチョウ科マダラチョウ亜科)

## はねに文字!?

高尾山では時折、翅に文字の書かれたアサギマダラに出会うことがあります。これは、アサギマダラの移動ルートを調査する人々によって各地でマーキングされたもので、高尾ビジターセンターでは過去に「Fuji」「ハコダテ」「デコ」などとマーキングされた個体が確認されています。これらは、旅をするアサギマダラがいろんな経路を経て、高尾山を訪れていることを裏付けています。

「デコ」「9/1」「SRS」「13209」とマーキングされたアサギマダラ（2008年10月3日高尾山で確認）



一般に、アサギマダラは移動しながら世代交代を重ねていると考えられています。

高尾山で成虫の姿に出会えるのは主に年2回。

高尾山で越冬した幼虫が成虫となって北上の旅を始める5月と、南下移動中の新世代が飛来する10月です。

アサギマダラが高尾山に引き寄せられるその背景にあるものとは・・・？

参考文献：旅をする蝶アサギマダラ／月刊むしNo.434(むし社)、アサギマダラ海を渡る蝶の謎(山と溪谷社) 謎の蝶アサギマダラはなぜ海を渡るのか？(PHP研究所)、昆虫1400①(文一総合出版)

季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」2018年春号 vol.51

東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成 2018年4月13日発行

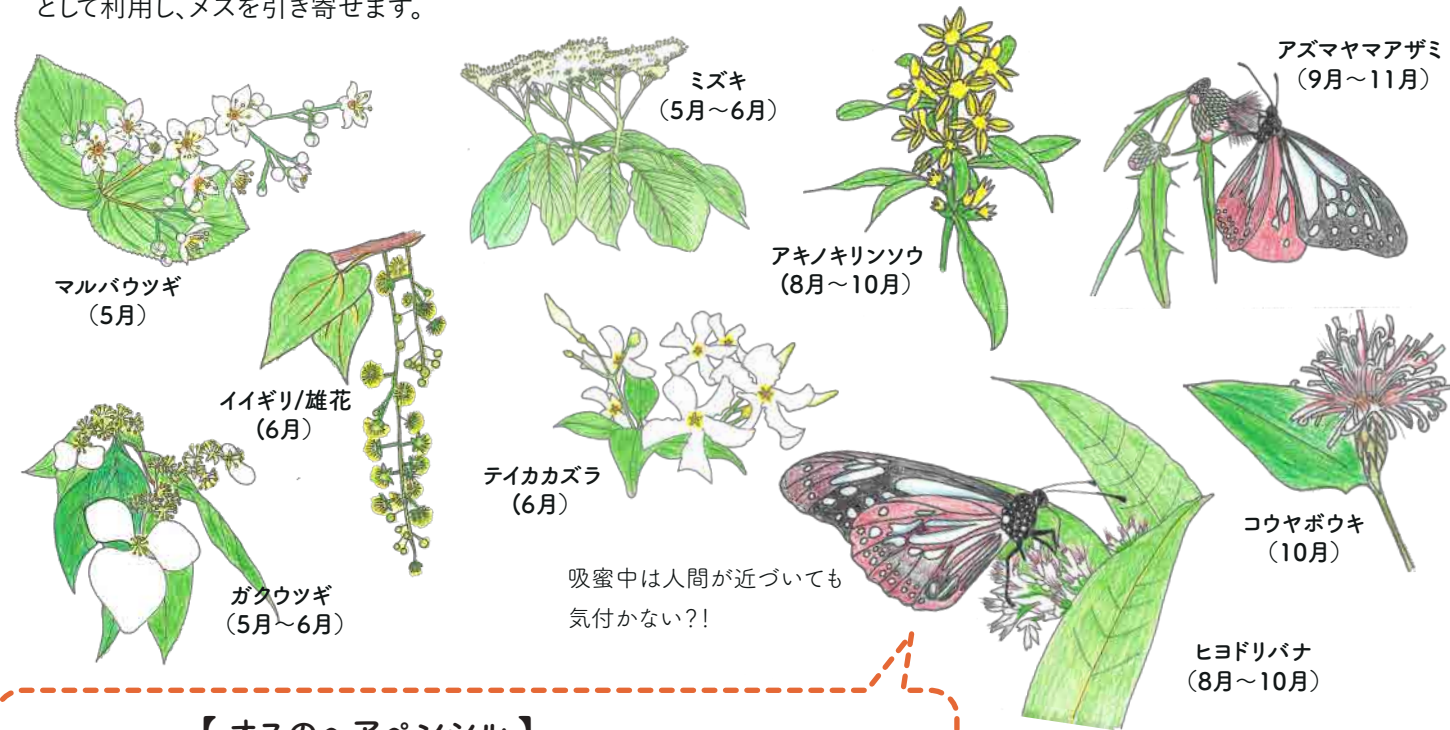
所在地：〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2176 電話：042-664-7872 FAX：042-662-9926

URL：http://takaovc599.ec-net.jp (カラー版最新号を閲覧できます)



## アサギマダラと高尾山をつなぐカギ 其の一 ～成虫が訪れる花々～

多様な植生を持つ高尾山では、春から秋にかけて多くの植物が花を咲かせます。アサギマダラは旅の途中でこれらの花々を利用しますが、中でもオスが蜜を吸う花には、ピロリジジンアルカロイド(略してPA)と呼ばれる有毒物質が含まれていることが知られています(※高尾山ではヒヨドリバナとアザミの仲間がその代表です)。オスはこのPAを性フェロモンの原料として利用し、メスを引き寄せます。



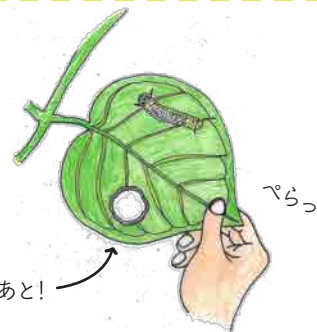
### 【オスのヘアペンシル】

オスの腹端の内部には「ヘアペンシル」と呼ばれる発香器官が収められていて、一対の黒い毛束になっています。オスはメスを引き寄せる際にこのヘアペンシルを出し、後翅の性標にこすりつけます(匂いづけ)。



## アサギマダラと高尾山をつなぐカギ 其の二 ～幼虫の食草キジョラン～

キジョランは、国内では関東以西の本州～沖縄にかけて分布するつる性の常緑多年草です。高尾山では山内のあちこちに自生しており、秋、高尾山で産卵する個体はこの葉の裏に卵を産み付けます。1週間ほどで孵化した幼虫は、葉を食べながら成長しますが、厳冬期にはほとんど食べることなく、葉の裏でじっと過ごします(幼虫越冬)。冬も葉を落とすことのないキジョランが、高尾山に豊富にあるということは、アサギマダラにとって大変重要なことなのです。



丸い穴は幼虫が葉を食べたあと!

旅をするアサギマダラにとって高尾山は、この地で誕生した成虫には旅の出発地となり、移動中の個体にとっては中継地・休息地として利用されます。高尾山では卵～成虫まで、姿を変えたアサギマダラに一年を通して会えることができますが、季節を通して注目していくと、この山で繋がる命があることをより深く知ることができます。まずはキジョランの葉っぱをやさしくめくってみるところからはじめてみませんか? (解説員 宇井)

## 明治100年と 「明治の森」高尾国定公園

今年(2017年)は明治150年という節目の年。50年前の明治100年も注目が集まりました。明治100年と「明治の森」高尾国定公園、ここには心の癒しを森に求めた当時の人々の願いが込められています。

高尾山の  
れきし  
vol.13

年の節目、人生の節目、節目節目は何かしら来し方行く末を感じるものがあります。平成30年は明治元年から150年の年です。この節目に、明治からの近代化の歩みを伝える記念事業が全国各地で企画・実施されています。

50年前の昭和43年の前後も「明治百年記念事業」という全国規模の事業が実施されました。その一つに国土緑化運動という事業がありました。この頃は、東京オリンピックを終え、いざなぎ景気の真っただ中、都市部では金の卵・集団就職などと呼ばれた大勢の人々が日々働く中、その疲れのリフレッシュが求められていました。

そこに必要とされたのが、身近な森での自然とのふれ合いでした。国土緑化運動は、そうした人々の願いを形にした一大事業だったのです。標語やポスターのコンテスト、記念曲や記念碑の作成・建設、植樹祭の実施など、その気運を盛り上げるための様々な行事が催されました。

そして、実際に森の恩恵に預かることのできる野外レクリエーションの場として、「明治の森」「国民の森」「県民の森」「森林公園」などの公園の造成や設置が全国各地で計画・実施されていきました。

そうした中、昭和42年12月11日「明治の

森」に選ばれたのが、ここ高尾山だったのです。高尾山はそれまでも人々の訪れる山として脈々と続いてきました。その軌跡は、戦国時代の制札、江戸時代の名所図、明治・大正時代の絵葉書や写真帳、昭和初期の案内誌などから伺うことができます。昭和25年には都立自然公園として利用されるようになりました。高尾山は時代を越えた、人々の拠りどころだったのです。

そして「明治の森」となったこの時、高尾山は、人々の思い描く身近な自然の全国的な象徴として、新たに認識されたのです。生活が豊かで便利になっていった高度経済成長期、自然が身近にあることもまた、その豊かさにつながること、人々が改めて気づいた時代でもありました。

「明治の森」は、身近な自然の大切さを人々に伝えるきっかけでもあり、出発点でもあったのです。そして50年の時を経た明治150年の今、高尾山は外国の人々も訪れるようになりました。

「明治の森」の姿、それは高尾山から得た私達一人ひとりの体験や感動の積み重ねとも言えます。社会性が多様になった今日、その姿も多様性を広め、深めていくことでしょう。

〈解説員 藤野〉

解説員の

いちおし

vol.9

タゴガエル

カエルなのに、  
ワンと鳴く...!?

グッグッグッ  
グッグッ  
ワンッ!



山地の溪流に生息する体長5センチほどのカエル。繁殖期には岩の割れ目の奥で、オスが鳴き、メスを呼びます。「グッグッグッ」という声の合間に、たまにひと声、「ワン!」と聞こえる声を出すことがあります。その声は面白くもあり、可愛くもあり、マネをしたくなるワン♪

見られる時期...4～5月  
見られる場所...1号路・6号路・日影沢  
などの沢沿いの岩場

〈解説員 佐藤舞子〉